

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490600507	事業の開始年月日	平成30年12月1日
		指定年月日	平成30年12月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	天王町グループホームえん		
所在地	( 240-0004 ) 横浜市保土ヶ谷区岩間町1-8-12 シーコムビル		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果 市町村受理日	令和4年7月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者自身でできることは、積極的に行ってもらい、ご入居者各々にスポットライトがあたるように、かつ活躍できるように私たち職員はサポートすることを心がけています。天王町駅から近い所にあるため、来所し易く、また自然にも囲まれているので、気軽に自然に触れ合うこともできます。今後も地域との交流を深め、地域の一員として担い、困った時はいつでも頼られる施設になるように努めています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月28日	評価機関 評価決定日	令和4年6月29日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「天王寺」駅から徒歩4分、JR横須賀「保土ヶ谷」駅から徒歩7分の6階建てビルの4階と5階に、3階には管理者が兼務する小規模多機能型居宅介護事業所があります。法人では2018年12月に地域密着型事業の介護サービスを神奈川県南部で展開しています。

<優れている点>

事業所では、法人の経営理念を事業所理念とし、行動指針に5つの「えん」（円、援、宴、園、縁）を掲げ、法人のWeb研修と管理者が行う事業所研修で意識の徹底をしています。家庭的な雰囲気の中で助け合いながら共同生活をしようと、利用者が食事、掃除など自分で出来ることは自主的に行うよう職員が支援をしています。地域の一員として公園の掃除を行い、関係を深めています。コロナ禍に影響がない散歩は日常的に行い、地域の人々とあいさつを交わすことで交流を継続しています。職員と利用者は信頼関係を築き、家族と連携取り合うことで関係者が幸せな生活を送るようサポートしています。

<工夫点>

介護の専門集団として利用者の真の幸福を追求しています。事業所ホームページにも事業所と利用者との関わり方をわかりやすく説明し公開することで開かれた事業所となっています。また、専門業者から取り寄せる湯煎料理から利用者職員が一緒に手作りする料理を段階的にとり入れ、切り替えています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	天王町グループホームえん
ユニット名	4F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	研修や会議等で理念を確認している。 キッチン内等、目につく所に掲示して共有して実践につなげられるように努めている 地域での買い物（コロナ禍なので人の出入りが少ないところ）や床屋を利用したり等	地域密着型の現企業を立ち上げた2018年に、経営理念「真の幸福を探求し、みらいの福祉を想像する。」を事業所の理念としています。さらに5つの「えん」（円、援、宴、園、縁）を法人のWeb研修と管理者が行う事業所研修で共有し徹底しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月1回の地域の公園掃除にご入居者と一緒に参加している。 近隣を散歩し、地域の方々に挨拶をする	町内会との活動として、月1回2つの公園掃除に参加しています。日常的な散歩は体力に応じて行ない、近隣とのあいさつは欠かしません。コロナ禍で事業所の行事や地域の行事が中止となっているなかでも、地域の事業所として交流を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護で困っている人が訪ねてきた時は、相談にのっている。 月1回の公園掃除もご入居者を必ず連れてって、認知症状がある方でも色々できることをアピールしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため書面でのやりとり	現在コロナ禍で、対面式を中止し事業所の取り組みを書面で報告しています。町内会長、民生委員、地域包括支援センター担当者、家族代表が構成委員として参加しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	困ったときは介護保険課、生活支援課、包括等に連絡しアドバイスを聞いている	横浜市とは運営推進会議の結果報告や介護保険制度、生活保護などで意見交換しています。地域ケアプラザとは利用者の取り扱いでアドバイスをしています。横浜市グループホーム連絡会にはWEB会議で参加や、保土ヶ谷区の勉強会にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置し定期的実施している。 研修はコロナ禍のため、課題を出してレポートをだすようにしている。	身体拘束・高齢者虐待事故防止委員会を3ヶ月に1回開催し、研修を計画的に行っています。身体拘束を起こさない工夫、職員間の相互確認、研修内容、アンケート内容を検討し実施しています。利用者の気持ちに寄り添い、日常の施錠は行わず出入り自由にしたところ、不安定さがなくなった事例もあります。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を設置し定期的確認している。	身体拘束・高齢者虐待事故防止委員会を3ヶ月に1回開催しています。職員の行動指針は身体虐待的拘束や言葉、心理的虐待を個別に説明しています。車いすからのずり落ちや立ち上がりへの安全対策では、心身の状態に応じて見守るようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	知り合いの後見人に色々相談にのってもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明後も、分からないことがあれば随時説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のため、家族会は実施していない。 意見箱や直接家族がこられた時に何か問題や要望がないかを聞いている	コロナ禍により家族との面会を中止していますが、毎月家族に送る「家族へのお手紙」で写真も一緒に送り、元気に過ごしている様子を伝えています。面会の代わりに家族映像を提案していますが実施には至っていません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や運営会議にて情報を共有している	ユニット会議や同一法人他事業所で意見交換する運営会議で摘出しています。事業所委員会活動の感染症、身体拘束、災害対策、物品担当を設置し職員の意見を反映しています。同会議内で異動の希望、出勤日の変更、入居者情報の交換も行われています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議に参加しており、管理者会議で上がった課題等は経営会議にて解決し、周知している	パートや職員の差別を付けず、実績や能力、資格取得で人事評価を行っています。課題となっている食事づくりは湯煎から職員自身が利用者協力で調理するように、順次各食事に拡大し、全面変更しています。新入職員にはステップごとの研修を推奨し人材育成を行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	中央研修を年間で計画すると同時に、外部研修も受けられるように情報を提供している	事業所では年間研修計画を作成して対象者を指名しています。諸事情で遅れ気味となっていますが、職員はWeb方式で法人研修を受講しています。介護研修発表会が12月にあり、事業所でも参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	親会社と交流する機会を作り、研修を実施したり、種別会議を開いたりしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が不安・心配していることを聞き出し、または傾聴して受け止めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っていることや要望を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは日常生活に必要な、食事、睡眠、排泄、入浴で困っていることがないかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活をする場であり、ご入居者ができないことを支援することを伝え実践している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には日々の様子を伝えるのと同様に、要望を聞けるようにしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの床屋や、散歩、または手紙を送ったり電話ができるように努めている	家族や友人との面会は利用者の自室に案内し懇談しています。コロナ禍により現在は自粛していますが、馴染みの場所や関係性の把握に努めています。関係が途切れないように手紙の返信や電話の取り次ぎ支援も行っています。オンライン面会も提案しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関わりがもてるように、またトラブルにならないように状況に応じて席替えをして、職員も間に入ったりして支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了しても、いつでも相談にのれるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今は本意が大事なのか本位が必要なのかを見極めて対応している。	入居時にも自宅を訪問し、本人や家族の思いや意見の把握に努めています。アセスメントシートに心身の状況、生活歴、病歴などをまとめています。入居後の日々の様子はケア記録や生活チェック表に記録し検討しています。意思表示が困難な場合には家族からも確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後も情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント、ケア記録、生活チェック表等に記録し各職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、本人の意向を聞いている。必要時は会議やカンファレンスを行い現状に適した支援ができるようにケアプランを作成している。	計画作成担当者が出席する会議で毎月利用者一人ひとりについてモニタリングを行っています。利用者の状態に変化が見受けられた場合は介護計画の見直しを行い、家族に説明した上で実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録に記入し共有できるようにし、ケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じてカンファレンスや会議にて柔軟な支援やサービスができるように検討している。訪問リハビリやご家族からの要望があった場合、福祉用具を入れたりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパーや公園、神社等各々の心身の力を発揮できるように支援している。初詣だけでなく、花火や駅伝も見に行ったりしている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との関係を築き、本人や家族が伝えられない時は、職員が代弁し、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回かかりつけの医療機関が訪問し利用者の状態を聞いて診察をしています。歯科は月2回来診しています。機能訓練を兼ねたマッサージを希望者に週1回おこなっています。食事前には嚥下体操を実施し、食事後には口腔ケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝の申し送り等でちょっとした変化や気づきを看護師や訪問看護に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、退院時の情報提供をすぐにとれるような関係づくりをしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に説明しており、再度重度化した場合は、往診の先生、本人、家族、職員とで話し合いをしている。	入居開始前に重度化、看取りの方針を家族などに説明し、同意を得ています。看取りになった場合は医師、看護師、薬剤師と連携して対応しています。年に1～2回職員へ研修を行っています。逝去時には葬儀場の紹介なども含めて家族への協力体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル化しているが、会議や申し送りでも周知している。必要であれば研修や勉強会に取り組むこともある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に1回は消防署立ち合いのもとで、避難訓練を実施している。マニュアルもあり、また運営推進会議でも話をしているが、建物上どこにも移動しない方が安全であることも伝えている。	火災と地震を想定した日中と夜間の避難訓練を年1回ずつ実施しています。水害については避難場所、避難ルートの確認を行っています。非常時備蓄品は水、米、おかずなどの非常食3日分を外部業者に委託し、定期的に入れ替えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や高齢者虐待防止委員会等でとりあげ、常に実施できるように話し合いをしている。	利用者一人ひとりを尊重する声かけや言葉遣いを職員全員で心がけています。特に排泄、入浴の声かけはプライバシーを配慮し、本人にわかる程度の小声にしています。利用者同志のトラブルを避けるよう事前に配慮し配席などにも工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者それぞれに適した対応でなるべく自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	人手不足で業務中心になりがちだが、できるかぎりご入居者中心に考えて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の個性が発揮できるように支援している。美容院に行けない方は、訪問理美容を活用し、本人の希望通りにカットやパーマをしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力を活かせるように食事作りや後片付けを一緒に行っている。	ユニットごと、別の食材会社に委託しています。献立と食材を購入し、職員が必要な調理をおこない提供しています。利用者は野菜のカットや配膳、食器洗い、盛り付けなどを分担し、準備や片付けに自主的に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	どの職員も情報共有ができるように生活チェック表を活かし、栄養や水分が不足しないように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必ず食後に歯磨きを行っており、定期的に訪問歯科を利用している方もいる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活チェック表を活かし、排泄パターンや習慣を把握し、なるべく自分でできるように又リハパンやおむつ等を無駄にしないように支援している。	日中は利用者一人ひとりの排泄傾向と自立度を把握し、声かけをしています。夜間には安眠を重視し、薬を提供し排泄の調節をしています。3ヶ所あるトイレはいずれも車いすで入室可能で温水洗浄便座も備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活チェック表で排便チェックをし、食べ物の工夫や運動を増やしたりしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく個々に応じた入浴ができるように支援している。	毎日入浴可能となっています。入浴拒否の人には状況により清拭を行います。リフト浴も完備し、車いす利用者が使用しています。同性介助を基本とし、異性介助の場合は本人の了承を得て行います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣で休息してもらっているが、もともとの生活が昼夜逆転している方は、なるべく適正な時間に寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を把握し、しっかり口の中に飲み込むとこまで確認、また副作用がないかの確認もしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの嗜好や趣味を聞いて、その方が楽しめるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜等季節に応じた花や木々を見に、お寺や近隣の公園等に出かけたりしている。	コロナ禍により外出が制限される中、駅前公園清掃は行っています。希望により30分程度の戸外への散歩にも職員が付き添って行きます。コロナ禍収束後はドライブでの外出も行う予定となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いはこちらで管理しているが、欲しいものがあれば、お小遣いから買えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、連絡が取れるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けや花を飾ったりしている。定期的に空気の入替えをしたり、開放感があるように心がけている。	広めにとった廊下は車いすのすれ違いも可能となっています。リビングは温度や湿度の空調管理を行い過ごしやすいように配慮しています。オープンキッチン台所からは、リビングと中廊下を職員が視認できる作りとなっています。利用者作成の塗り絵、貼り絵を壁に飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席は固定にはせず、気の合った方と話しやすい環境を作るようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。	カーテン、ベッド、エアコンは備え付けてあり、洗面台を各室に設置しています。タンス、テレビ、仏壇、写真、いすなど思い思いに馴染みのものを持ち込んでいます。転倒しやすい利用者は安全のためにセンサーマットを持ち込んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力を活かし生活ができるように支援している。		

事業所名	天王町グループホームえん
ユニット名	5F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	研修や会議等で理念を確認している。 キッチン内等、目につく所に掲示して共有して実践につなげられるように努めている 地域での買い物（コロナ禍なので人の出入りが少ないところ）や床屋を利用したり等		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月1回の地域の公園掃除にご入居者と一緒に参加している。 近隣を散歩し、地域の方々に挨拶をする		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護で困っている人が訪ねてきた時は、相談にのっている。 月1回の公園掃除もご入居者を必ず連れてって、認知症状がある方でも色々できることをアピールしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため書面でのやりとり		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困ったときは介護保険課、生活支援課、包括等に連絡しアドバイスを聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置し定期的実施している。 研修はコロナ禍のため、課題を出してレポートをだすようにしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を設置し定期的確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	知り合いの後見人に色々相談にのってもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明後も、分からないことがあれば随時説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のため、家族会は実施していない。 意見箱や直接家族がこられた時に何か問題や要望がないかを聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や運営会議にて情報を共有している		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議に参加しており、管理者会議で上がった課題等は経営会議にて解決し、周知している		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	中央研修を年間で計画すると同時に、外部研修も受けられるように情報を提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	親会社と交流する機会を作り、研修を実施したり、種別会議を開いたりしている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が不安・心配していることを聞き出し、または傾聴して受け止めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っていることや要望を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは日常生活で必要な、食事、睡眠、排泄、入浴で困っていることがないかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活をする場であり、ご入居者ができないことを支援することを伝え実践している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には日々の様子を伝えるのと同様に、要望を聞けるようにしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの床屋や、散歩、または手紙を送ったり電話ができるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関わりがもてるように、またトラブルにならないように状況に応じて席替えをして、職員も間に入ったりして支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了しても、いつでも相談にのれるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今は本意が大事なのか本位が必要なのかを見極めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後も情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント、ケア記録、生活チェック表等に記録し各職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、本人の意向を聞いている。必要時は会議やカンファレンスを行い現状に適した支援ができるようにケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録に記入し共有できるようにし、ケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じてカンファレンスや会議にて柔軟な支援やサービスができるように検討している。訪問リハビリやご家族からの要望があった場合、福祉用具を入れたりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパーや公園、神社等各々の心身の力を発揮できるように支援している。初詣だけでなく、花火や駅伝も見に行ったりしている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との関係を築き、本人や家族が伝えられない時は、職員が代弁し、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝の申し送り等でちょっとした変化や気づきを看護師や訪問看護に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、退院時の情報提供をすぐにとれるような関係づくりをしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に説明しており、再度重度化した場合は、往診の先生、本人、家族、職員とで話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアル化しているが、会議や申し送りでも周知している。必要であれば研修や勉強会に取り組むこともある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に1回は消防署立ち合いのもとで、避難訓練を実施している。マニュアルもあり、また運営推進会議でも話をしているが、建物上どこにも移動しない方が安全であることも伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や高齢者虐待防止委員会等でとりあげ、常に実施できるように話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者それぞれに適した対応でなるべく自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	人手不足で業務中心になりがちだが、できるかぎりご入居者中心に考えて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の個性が発揮できるように支援している。美容院に行けない方は、訪問理美容を活用し、本人の希望通りにカットやパーマをしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力を活かせるように食事作りや後片付けを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	どの職員も情報共有ができるように生活チェック表を活かし、栄養や水分が不足しないように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必ず食後に歯磨きを行っており、定期的に訪問歯科を利用している方もいる。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活チェック表を活かし、排泄パターンや習慣を把握し、なるべく自分のできるように又リハパンやおむつ等無駄にしないように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活チェック表で排便チェックをし、食べ物の工夫や運動を増やしたりしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく個々に応じた入浴ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣で休息してもらっているが、もともとの生活が昼夜逆転している方は、なるべく適正な時間に寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を把握し、しっかり口の中に飲み込むとこまで確認、また副作用がないかの確認もしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの嗜好や趣味を聞いて、その方が楽しめるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜等季節に応じた花や木々を見に、お寺や近隣の公園等に出かけたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いはこちらで管理しているが、欲しいものがあれば、お小遣いから買えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、連絡が取れるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けや花を飾ったりしている。定期的に空気の入替えをしたり、開放感があるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席は固定にはせず、気の合った方と放しやすい環境を作るようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力を活かし生活ができるように支援している。		

2021年度

事業所名 天王町グループホームえん

作成日： 令和4年 7月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員が入れかわったのもあるが、既存職員でもまだまだ地域密着型サービスの意義を踏まえて事業所理念が浸透できていない	前回と引き続き GHの意義と事業所（法人）の理念を全職員が理解し把握をする	常に職員には会議や研修を通して、常に言い続けていく。	12ヶ月
2	13	新人職員は入社時の研修が充実して色々学んでおり、考え方や支援の仕方が既存職員との差が生まれてきている。	既存職員にも認知症の理解や介護技術等を学んでもらい、サービスの質の差がないようにする	個別研修を活かして、それぞれが不得手なところを補えるように、また得意なところはより伸ばせるように進めていく	12ヶ月
3	11 12	職員の入れ替わりが多いため、中々足並みがそろわない	職員が定着できるようにする	業務をしやすいように環境を整えて、異動しても働きやすい環境を作る。同時に、新人のトレーニングに時間をかけるようにする。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月